

令和3年度第2回社会教育委員会議次第

日 時 令和3年11月19日（金）

午後3時00分から

場 所 第二庁舎4階 教育委員会会議室

1 開 会

2 挨 拶

3 案 件

（1） 各種会議等の報告について 【資料1】

（2） 地域ぐるみ家庭教育支援フォーラムについて 【資料2】

（3） 厚木市における地域学校協働活動について 【資料3】

（4） その他

・ 第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会 【資料4】

・ 第43回全国公民館研究集会 【資料5】

第61回関東甲信越静公民館研究大会山梨大会全体会

4 閉 会

令和3年度社会教育委員会議 活動報告書

資料1

厚木市主催事業

期 日	会議等の名称	内 容	場 所	参加人数
8月24日(火)	第1回会議	・社会教育委員会議の公開及び会議録について ・令和2年度活動報告について ・令和3年度活動計画について（「厚木市における地域学校協働活動について」（提言書作成）【継続】、地域ぐるみ家庭教育支援フォーラム） ・小委員会委員の選出について ・各種委員の選出について ・「元気なあつぎっ子 心がけ6か条」の原稿確認について	第二庁舎16階会議室A	14人
9月28日(火)	第1回小委員会	・厚木市における地域学校協働活動について ・令和3年度地域ぐるみ家庭教育支援フォーラムについて	第二庁舎2階福祉事務所会議室	5人

神奈川県社会教育委員連絡協議会関係等

期 日	会議等の名称	内 容	場 所	参加人数
4月16日(金)	第1回理事会	・令和2年度実施事業について ・令和3年度事業計画（案）について ・令和3年度全国社会教育委員連合表彰候補者の選考について ・地区研究会の開催について ・令和3年度役員等について	かながわ県民センター	1人 杉山前議長
【書面開催】 6月7日(月)	総会	・令和2年度事業実施報告並びに収支決算報告について ・令和3年度事業計画（案）並びに収支予算書（案）について ・令和3年度役員等について	書面開催	15人
7月29日(木)	生涯学習指導者研修 学校と地域との協働推進コース②	○事例発表と協議 「県立学校における地域学校協働活動の事例」 県立座間高等学校（前県立愛川高等学校 校長） 校長 村上 聡 氏 ○講話とグループ協議 「地域学校協働活動の推進の仕方～地域の実情に合わせて～」 NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク 事務局長 井上 尚子 氏	総合教育センター 205研修室	2人
8月17日(火)	生涯学習指導者研修 学校と地域との協働推進コース③	○事例発表 「地域学校協働活動～学校を核にした地域づくりへの展開～」 二宮町 一色小学校区地域再生協議会 廣上 正市 氏 ○講話 「これからの多世代連携・持続性のある地域運営」 横内こどもサポートネットワーク協議会 鈴木 奏到 氏	オンライン (Zoom)	1人

神奈川県社会教育委員連絡協議会関係等（つづき）

8月26日(木)	生涯学習指導者研修 学校と地域との協働推進コース④	○事例発表 「地域学校協働活動～湯河原町放課後子ども教室の実践を通して～」 湯河原教育委員会社会教育課 社会教育推進員 中村 歩 氏 ○講話 「地域学校協働活動を円滑に推進していくために～推進員の育成～」 厚木市立森の里小学校 学校運営協議会 会長 青木 信二 氏	オンライン (Zoom)	1人
10月25日(月)	第2回理事会	・令和3年度実施事業について ・令和3年度地区研究会について ・令和3年度中期決算見込について	オンライン (Zoom)	1人
【動画配信】 10/18(月) ～ 11/12(金)	社会教育委員連絡会議	「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けて」～学校を核とした地域づくり～ 講 師 一般社団法人みたかSCサポートネット代表理事 文部科学省 CSマイスター 四柳 千夏子 氏	神奈川県立総合教育センターホームページにて、動画配信	-
【動画配信】 10/6(水) ～ 11/26(金)	研修会	<事例> ②葉山町(令和2年度地区研究大会担当市町)の発表 ③山北町(令和2年度地区研究大会担当市町)の発表 <講演> ④演題 「社会教育委員の新たな役割～社会の大きな変化の中で～」 講 師 明治学院大学社会学部社会学科教授 坂口 緑 氏 ④-1コミュニティの変容 ④-2かながわ教育ビジョン、中央教育審議会答申、社会教育委員の役割 ④-3生涯学習者であること、生涯学習を支援する人であること、人づくり+地域づくりの事例、社会教育委員の新しい役割	神奈川県立総合教育センターホームページにて、動画配信	-
【動画配信】 10/29(金)～	関ブロ社会教育研究大会	○基調講演 演題「歴史を踏まえた地域づくり」 講師 笹本 正治 氏 (長野県立歴史館 特別館長) ○山梨県事例発表 タイトル「次世代へつなぐ地域文化遺産の継承」 発表者 岡田みどり 氏 (甲斐市敷島公民館) ○分科会 第1分科会「公民館の今日的課題」 第2分科会「地域をつなぐ公民館」 第3分科会「防災と危機管理」	大会公式ページにて動画配信	-
【大会冊子ダウンロード】 11/11(木) ～ 1/31(月) 【動画配信】 12/1(水) ～ 1/31(月)	公民館大会	○基調講演「みんながつくる<社会>へー 人生100年、AI、そしてポストコロナ時代の社会教育ー」 講師 東京大学教授 牧野 篤 氏 ○トークセッション ・コーディネーター 東京学芸大学准教授・立川市生涯学習推進審議会委員 倉持伸江 氏 ・登壇者 東京大学教授 牧野 篤 氏 演出家(ミュージカルアニーほか) 調布市社会教育委員 篠崎 光正 氏 東海大学准教授・昭島市社会教育委員 二ノ宮リム さち 氏 日本大学文理学部講師・町田市社会教育委員 吉田 和夫 氏	動画配信	-

令和3年度地域ぐるみ家庭教育支援フォーラム開催要領（案）

1 目 的

厚木市の家庭教育の向上を目指すため、地域の特性を活かしながら、家庭教育支援の視点で既存事業を見直し、家庭教育支援の取組を推進する地域ぐるみ家庭教育支援の実践に役立つ情報提供や、地域での家庭教育支援の方策について、共通認識を深めることを目的として開催する。

また今年度は、今後取り組んでいく地域学校協働活動について考えるきっかけづくりとなる内容を盛り込むものとする。

2 主 催 厚木市教育委員会・厚木市社会教育委員会議

3 開催日

令和4年3月19日（土）

※午後2時00分～4時00分（午後1時30分受付開始）

※前週3/5（土）と前々週2/26（土）は一部公民館まつりの開催あり

4 会 場

子ども科学館サイエンスホール 250（定員 65⇒250 人）※昨年度予定会場

市民交流プラザ7階 amy studio（定員 58⇒83 人）

※オンライン（録画して後日 YouTube 配信）に変更となる可能性。

5 対象者 社会教育委員、公民館職員、地区活動関係者、学校運営協議会関係者

6 内 容

（1）開会 【10 分】

主催者挨拶 厚木市教育委員会 教育長 佐後 佳親
厚木市社会教育委員会議 議長 林 元春

（2）基調講演 【20 分～30 分】

「地区公民館の挑戦 地域社会における緩やかなつながりづくり
～地域ぐるみ家庭教育支援事業と地域学校協働活動～」

講師 森の里公民館 地区館長 ※元社会教育委員会議 議長
青木 信二 氏

（3）パネルディスカッション 【60 分～70 分】

「（仮）地域学校協働活動の身近な実践例」

コーディネーター 厚木市社会教育委員会議 委員 遠藤 進

パネリスト 玉川地区 せんみ風保存会 前場氏

パネリスト 愛川中原中学校 地域学校協働活動推進員 高橋氏

パネリスト 愛川町教育委員会 生涯学習課 谷島氏

パネリスト 森の里小学校 地域学校協働活動推進員 飯田氏

提言書作成のスケジュール

資料3-1

年度	会議種類	回数	時期	概要	検討内容
令和2年度	全体会	第2回目	R2.11	議論	★今後のスケジュールについて ★提言書骨子(案)について
	全体会	第3回目	R3.2	議論	★他市事例資料の送付
	全体会	第4回目	R3.3	議論	★他市の事例に基づく協議 ★厚木の現状と課題
令和3年度	全体会	第1回目	R3.8	R2報告及びR3計画	★令和2年度の協議結果報告 ★令和3年度のスケジュール ※新委員間での共有
	全体会	第2回目	R3.11	R2報告及びR3計画	★前回配布した資料の簡単な補足説明等 ★厚木の現状と課題データを抽出するためのアンケート(公民館)結果
	全体会	第3回目	R4.1	情報収集 議論	★モデル地区の職員等からの取組報告 ★今後の厚木市における方向性等の協議
	全体会	第4回目	R4.3	議論 提言書案の確認	★社会教育委員会議からの提案内容について ★提言書案の協議
R4	全体会	第1回目	R4.6	確認	★提言書内容の最終確認

※全体会との間に小委員会を設けて議論を進める。

提言書 骨子(案)

はじめに 提言書作成にいたる経緯

第1章 地域学校協働活動とは

第2章 厚木市の現状と課題

第3章 他市の事例

第4章 今後の厚木市における方向性

第5章 社会教育委員会議からの提言

おわりに

令和 3 年 11 月 19 日

厚木市教育委員会 社会教育課

地域と学校の協働活動についてのアンケート調査結果

1 地域学校協働活動について

(1) 「地域学校協働活動」について、どの程度知っていますか

- ☐ 内容も含めて知っている・・・11 館
- ☐ 名前を聞いたことがある・・・4 館
- ☐ 知らない・・・・・・・・・・・・・0 館

(2) 「地域学校協働活動推進員」について、どの程度知っていますか

- ☐ 内容も含めて知っている・・・11 館
- ☐ 名前を聞いたことがある・・・3 館
- ☐ 知らない・・・・・・・・・・・・・1 館

また、公民館として、どのような立場の人が推進員になれば、地域と学校の協働活動が円滑に進むと思いますか。

例：よく公民館に出入りしている地域の人。学校をよく知る P T A の人。

(回答一覧)

- ・ 地区の人材や行事に精通しており、かつ学校と頻繁に意見交換を行い、それぞれの課題を把握できる方。かつ他団体の長（代表者）ではない方（負担軽減のため。）
また、ボランティアの心得に精通している方。
- ・ 公民館活動もしくは、学校活動に関わりのある人。
- ・ 地域、学校のことを良く知っていて、学校と地域のパイプ役として調整のできる人。
- ・ 立場は特に問わないが、推進員が担うのはコーディネート機能であるため、地域とも学校とも積極的に関わろうとする人であって、マッチングすることによる効果が思い描ける人が望ましい。
- ・ 自治会にも学校 P T A にもこれ以上負担を強いることはどうかと思う半面、自治会、P T A の方々が推進員になることが効果的なのではないかと考える。

- ・ 公民館に精通している人、学校に精通している人。それぞれいると思われるが、両方に精通している人はなかなかいない人と思われるため、協働活動したら、どのような利点生まれるか考えられる人が良いと思われます。
- ・ 教員(OB 含む)
- ・ 公民館の施設を利用される地域住民の方。地域のことをよく知る自治会長。公民館活動もしくは、学校活動に関わりのある方。
- ・ 地域、学校に関りのある人
- ・ 地域の人材や公民館事業、学校行事に精通している人。日中でもある程度、時間に余裕がある人。
- ・ 公民館に精通している人、学校に精通している人。人材は限られており、負担が増すのは避けられない。
- ・ 公民館活動や学校活動に関わりがある地域の人。
- ・ 地域学校協働活動推進員の所管がどこか不明だが、今後、公民館が関わるのであれば、公民館に出入りしている人となるが、公民館には、現在でも数多くの団体があり、その構成員のほとんどが同じ人々となっている。また、この構成員の多くが自治会活動にも携わっている。
自治会活動等の軽減が叫ばれる中で、これ以上、負担を強いるのは厳しい状況であり、学校の授業にも関連することなので、学校教育所管課の関与も必要ではないか。
- ・ 地域の状況に明るい教育関係のOB・OGの方
- ・ 地域の活動に参加されていたり、学校活動をよく知る人

【総括】

地域（公民館）と学校の両側面に精通されている人が望ましいとの回答が多かった。また、積極的に地域や学校の行事と関わり、双方のパイプ役になりえる人。（PTAの方や教員 OB 等）

(3) 地域学校協働活動を実施するにあたり、公民館事業を推進する上で、期待される効果を御記入ください。

例：学校の情報が入手しやすくなる。学校を絡めた事業を推進できる。等

(回答一覧)

- ・学校の情報入手や学校を絡めた事業については、既に公民館職員が可能な限り行っている。それ以上に、地域子ども教室や児童館、放課後児童クラブ、地域福祉推進委員会等、学校と関わりを持ち、児童・生徒を対象としている団体等を、部や組織を越えて統合若しくは統括することが可能となれば、より計画的に事業を推進できる。
- ・生徒と公民館事業の関係性が親密になり、生徒のニーズに対応した公民館事業を展開できる。
- ・学校活動と地域活動をお互いが共有することにより、事業への参加者などの増加につながることや、多くの方との交流が期待できる。
- ・推進員等を通じて、小中学生や地域へ公民館事業等を知ってもらえる可能性が広がる。
- ・学校と公民館との関係性が深まり、学校、生徒のニーズに応じた事業が展開できる。
- ・学校と公民館お互いの情報共有。
- ・今までも学校との連携事業を実施しているが、この活動を実施することでより連携が深まる。
- ・生徒と公民館事業の関係性が親密になることで、生徒のニーズに応じた公民館事業を展開できる。また地域の人との交流に繋がり、地域の一体感が高まることに繋がる。
- ・子どもや、子を持つ親のニーズに応じた事業を企画することができる。
- ・公民館事業に参加する児童数の増加が期待できる。
- ・学校と情報共有がしやすくなり事業が展開できる。
- ・協働活動の具体性が明確でないので効果の明確化が必要。
学校を絡めた事業を推進しやすい。
- ・学校を絡めた事業を推進できる。

【総括】

事業への参加者数の増加、より多くの方との交流、学校・生徒のニーズの把握、学校と公民館の情報共有（連携）、学校を絡めた事業の展開等。

(4) 地域学校協働活動を実施するにあたり、課題に思えることがあればご記入ください。

例：学校から得た情報をどう地域づくりに活かしていったらいいか不安。等

(回答一覧)

- ・現状では、各団体の委員が重複しており、組織だけ整備しても同じ方々の負担となる。特に現役世代の方は、それぞれ仕事をもちながらボランティアとして協力していただいております、個々の責任感や情熱に頼っている部分が多い。

新しい人材の発掘を行い、協力していただける方々へのメリットや還元（報酬含む）等を充実すべきと思う。

- ・推進員の確保。
- ・地域学校協働推進員への負担が集中しないような支援体制の構築、地域社会と児童・生徒の個人情報に配慮した中で、どこまで活動することができるか。
- ・推進員への過度な負担が生じること。
- ・ネットワークの構築が難しいこと。
- ・地域全体に地域学校協働活動を認知してもらうこと。
- ・教育以外の他分野との整合が図れていないこと。
- ・地域学校協働活動を推進する上で、**地域側でどのような実施体制を整えていくのが課題。**
- ・推進員への負担、推進員の確保
- ・地域活動、学校活動お互いに法があり、個人情報等の問題をどうクリアして、活動ができるのか。
- ・現在の事業と似たような事業を実施することが想定されることから、事務負担が増えることや、団体等との調整が課題となる。
- ・**地域側の実施体制の整備が課題**
- ・推進員の負担が大きい。推進員の継続した人材の確保が困難。
- ・公民館事業に参加する児童数の増加が期待できる。
- ・連携するのは良いことだが、協働活動のウエイトがどのくらいか不明なので、公民館事業**全体の組み立て方に検討が必要。**
- ・地域の活動を、学校側がどこまで受け入れてくれるのか、どこまで協働できるのか。

【総括】

地域役員の負担の増加、推進員への負担の集中、推進員（人材）の確保、活動に対する周知、教育委員会以外（地区市民センター）業務との整合、地域の体制整備等。

2 現在の地域と学校の協働について

(1) 貴公民館区にある学校において、地域と学校の協働が活発に行われていますか。

- ☐全ての学校で活発に行われている・・・14 館
- ☐一部の学校で活発に行われている・・・0 館
- ☐活発に行われていない・・・・・・・・・・0 館
- ☐分からない・・・・・・・・・・1 館

分からない場合は、次の欄に理由をご記入ください。

(例：学校運営協議会に公民館職員が入っていないため等)

(回答一覧)

- ・地域と協働の定義が不明。以下(2)で協働活動と思われる事業を記載する。

(2) 地域と学校の協働活動について、現在実施している事業内容を教えてください。

関わっているボランティアの人数や、経費(概算で結構です)についてもご記入ください。

例：学校の「総合的な学習の授業」を活用し、地元のせんみ風保存会の協力の下、公民館事業としてせんみ風の作成方法をシリーズ開催している(ボランティア5人、せんみ風保存会4人、経費10万円)。

学校からの依頼で地域人材の紹介を行っている。等

(回答一覧)

- ・地域子ども教室：中学校水泳部を講師として水泳教室、盆踊り大会に子ども盆踊りの参加、ボールゲーム、風揚げイベント等 委員15名、年間予算183,000円
- ・地域福祉推進委員会世代間交流部会：高齢者と小学生の交流イベント(給食会、スポーツ、昔あそび、厚小カーニバルでの展示会開催) 委員29名、年間予算220,000円
- ・文化振興会：小学校の授業時間に委員が昔あそび道具の作り方や遊び方を教える。委員13名
- ・運動会や公民館まつりで小中学生にボランティア協力やアトラクション出演を依

頼。

- ・学校のトイレ掃除（7月～、人数及び経費不明）
- ・あいさつ運動（予定、人数及び経費未定）
- ・九九プロジェクト（予定、人数及び経費未定）
- ・防災訓練、年末美化清掃への中学生の参加。
- ・地域子ども教室（経費26万円（2校分））
- ・地域福祉「世代間交流事業」ふれあい給食会を3小学校で実施。（経費3万円（令和元年度））委員のべ19人
- ・南北駅伝
- ・公民館まつりへの出展
- ・小学校PTAと地元自治会が主催し、国道陸橋高架下を中心にゴミポイ捨て防止運動を実施している。（参加者約80人（児童含む）、経費約2万円）
- ・県道擁壁への落書きを防止するため、地域と地区内小中学校が協働で壁画制作を実施している。（参加者約130人（うち、小中学生50人）、経費約20万円）
- ・夏休み学級・講座プログラムについて学校を通じ配布
- ・小学生2年生を対象とした公民館施設見学
- ・小学校3年生を対象とした公民館地区館長による講和
- ・地域こども教室、学校での除草作業等。
- ・睦合西公民館学級講座 ウインドウアート教室(11/3 実施)
【内容】午前の部で林中学校美術部と応募した子どもたちが、未来への希望を込めて、公民館の窓ガラスにガラス専用のチョークで希望の花火を描いた。
【予算】約50,000円【参加人数】31人
- ・睦合西地区青少年健全育成会事業 睦合西地区吹奏楽コンサート(検討中)
林中学校と厚木東高校等との吹奏楽コンサートを開催予定
【内容】公民館の体育室で、吹奏楽コンサートを開催する。【予算】約150,000円
【参加人数】検討中
- ・地域子ども教室推進事業【実施済み】竹ぼっくりづくり教室（役員18人、経費約3万円）
- ・【予定】デカスポテニス教室（役員18人、経費不明）
- ・夏休み学級・講座プログラムについて、学校を通じ配布
- ・親子で盆踊り（小鮎夏祭り）【コミュニティ振興事業】
- ・親子で運動会（小鮎地区運動会）【体育振興事業】
- ・親子でグラウンド・ゴルフ（ふれあい秋季健康まつり）【コミュニティ振興事業】
- ・親子で昔あそび（新春おたのしみ会）【文化振興事業】
- ・6年生の卒業制作として「せんみ風」の制作を11月から2月まで、全10回特別授業として行っている。（せんみ風保存会4人、前館長、地区館長、保護者ボランティア

ィア)

- ・地域住民と小学校1・2年生が、昔遊びを通じて世代間交流を行っている。(地域福祉推進委員会、しあわせクラブ)
- ・学校からの依頼で文化振興会等の地域人材の紹介を行っている。
- ・地域こども教室
- ・地域子ども教室：フロアカーリング教室、ボッチャ教室
- ・相川地区青少年健全育成会連絡協議会：芋ほり大会
- ・夏休み期間中に学級・講座のプログラムを学校経由で配布
- ・緑ヶ丘地区学校草刈り
- ・芋ほり大会、ボーリング大会(青少年健全育成会主催)
- ・公民館施設見学
- ・学校からの依頼で、地域人材の紹介をしている。
- ・学校のピロティを利用し、「ふれあい喫茶」を開催し、地域の方がボランティア参加している。
- ・地域団体の方に、児童への指導を依頼している。
- ・学級・講座開設委員会の高齢者教養部会が小学生に地域の「むかしあそび」を教え、世代間交流を図っている。(ボランティア4人、部会員10人、経費約5千円)
- ・地域福祉推進委員会主催の福祉交流大会の音楽会やレク大会で子どもたちと交流している。(委員・ボランティア約70人、経費約15万円)
- ・地域内の大学生が講師となり、児童がゲーム形式で自然について学ぶ「ネイチャー教室」を開講している。(東京農大自然教育研究会ネイチャーズクラブ約35人、経費約8万円)

【総括】

公民館事業(地域子ども教室、学級講座、夏休み体験教室、公民館まつり、文化振興会、体育振興会、コミュニティ)、地区市民センター事業(地域福祉推進委員会)の他、地区によっては学校の清掃活動や除草作業、地区の防災訓練や美化清掃活動、独自の取り組みを実施している地区もある。

(2)ーア 協働活動を行っている中で、苦勞されていることがあればご記入ください。

例：学校にどこまでお願いして良いのか分からない。

学校の様子が分からない。

地域役員の高齢化、活動を担う人材の不足等。

(回答一覧)

- ・ 地域役員の高齢化、活動を担う人材の不足。
- ・ 学校と地域を繋ぐ役割。
- ・ 役員に現役世代が多い場合、行事に関するほぼ全ての準備を事務局だけで行う必要がある。
- ・ 学校のニーズを的確に把握することの難しさ。
- ・ 児童・生徒の個人情報配慮した上で活動しなければならない。
- ・ 地域役員の高齢化、活動を担う人材の不足等
- ・ 地域役員の高齢化は進んでおり、事業のマンネリ化も見られる。地域活動の根底の部分で見直さなければならない時に来ているのではないか。
- ・ 地域役員の高齢化と、複数団体の充て職が負担となっている。
- ・ 地域役員の高齢化は進んでいる。協力していただける人材が限られていて、負担が増している。
- ・ 地域役員の活動を担う人材の不足等。
- ・ 今のところ特にないが、今後、地域役員の高齢化が気になるところである。

【総括】

多くの公民館が地域役員の高齢化や活動を担う人材不足を上げている。複数団体を兼ねている委員は負担が増えている。一部の公民館で、学校のニーズが分からないと回答した公民館もある。

(2)ーイ (2)の活動を行っている中で、良いところがあればご記入ください。

例：地域の団体とのつながりが強化された。学校の活動がよく分かるようになった等。

(回答一覧)

- ・参加者、スタッフが笑顔になる。
- ・学校の先生と顔なじみになることで、互いに協力関係を築くことができる。
- ・多様な団体の委員に協力していただくことで、横のつながりが生まれる。
- ・地域とのつながりが強化された。
- ・学校の活動がよく分かるようになった。
- ・学校と地域のニーズが分かるようになった。
- ・地域と学校とが顔の見える関係になった。
- ・地域と学校の相互理解が深まった。
- ・公民館事業に子どもたちが参加することで、公民館(社会教育)活動に理解が得られ
また、事業に参加することで達成感を感じられることは、成長に寄与できる。
また、地域の方々が参加することは、生きがいやコミュニティ創出の場の効果がある。
- ・地域と学校の相互協力が強まった
- ・地域及び役員とのつながりができる。
- ・学校との協力関係がつながる。
- ・学校と地域の団体のつながりが、強化された。

【総括】

地域と学校が相互に協力しあえる関係が構築できる。相互理解が深まる。横のつながりが生まれる。学校の活動がよく分かる。公民館（社会教育）活動に理解が得られる。等

(2)ーウ (2)の活動を行っていない場合は、どのような活動を行いたいと思うか。

(回答一覧)

- ・地域の人材を活用して、地域に根付いている文化などを子どもたちに伝承できるような講座や物づくりなどを行いたい。



資料 4

3都市社連協発第56号

令和3年11月9日

関東甲信越静各都県・政令指定都市
社会教育委員連絡協議会長・事務局長 様

令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会
実行委員長 長畑 誠
(東京都市町村社会教育委員連絡協議会会長)

第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会冊子について（送付）

このことについて、下記のとおり大会冊子を送付いたしますので、貴協議会にてご活用ください。大会冊子データにつきましては、令和3年11月11日から同大会ホームページにてダウンロード可能となります。

なお、大会の様子を録画した映像につきましては、同大会ホームページに期間を限定して公開します（令和3年12月1日から令和4年1月31日まで公開予定）。

閲覧方法は別紙のとおりですので、管下の社会教育委員並びに関係機関等へ周知をお願い申し上げます。

記

1 送付物

- (1) 第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会 大会冊子
- (2) 別紙 第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会の配信について

2 部 数 各協議会 10 部

令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会
実行委員会事務局（府中市文化スポーツ部文化生涯学習課内）
担当 柏木・諫山・栗原
TEL 042-335-4394
E-mail syakyo01@city.fuchu.tokyo.jp



令和3年度 第52回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会 開催要項

1 大会スローガン

明日に向け 学びの輪を広げよう！！
～地域の魅力 グローバル社会で再発見～

2 開催趣旨

私たちは、今、人生100年時代に向け、未来志向の社会教育を考えていかなければなりません。

社会教育は、人・つながり・地域をはぐくみ、よりよい社会を形成することが出来るものだからです。

大会スローガン「明日に向け 学びの輪を広げよう！！」は、人生100年時代のこれからの未来を表現し、社会教育＝学びが広がっていくことをイメージし、人や地域がつながっていくことを目指します。

これまで、それぞれの地域では、豊富な人材と魅力あふれる多くのコミュニティにより様々な取り組みが行われてきました。しかしながら、超高齢社会が進み、コミュニティの弱体化が叫ばれるようになり、最近では、新型コロナウイルス感染症がそれに追い打ちをかける事態となっています。そして、社会教育が得意とする、顔と顔を突き合わせてのコミュニケーションがとりづらくなり、コミュニティの先細りへの不安が地域に広がってきています。

そのような中、インターネットを活用した新しいコミュニケーションの取り方が広がりを見せており、新しい地域のつながり、社会教育の方法を模索しなければなりません。人々によってはぐくまれた地域の魅力を再発見する必要があります。東京大会が、地域の活性化に向けた新しい社会教育活動のきっかけとなるような大会になれば幸いです。

3 主催

一般社団法人全国社会教育委員連合、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会、
東京都市町村社会教育委員連絡協議会、
令和3年度関東甲信越静社会教育研究大会東京大会実行委員会

4 期日

令和3年11月11日（木）

5 会場

府中の森芸術劇場（東京都府中市浅間町1-2 TEL：042-335-6211）
京王線東府中駅北口下車徒歩7分
[新宿駅から約25分、京王八王子駅から約20分]
※会場への大会内容に関するお問い合わせは御遠慮ください。

6 参加対象

東京都内の社会教育委員および社会教育・生涯学習・地域活動に関心のある方（約300名）
（関東甲信越静各県及び政令指定都市については、大会終了後、録画配信予定）

7 参加費

一人 3,000円（大会資料代として）

※参加費（大会資料代）については、支払後の返金はできかねますので予めご了承ください。
（当日、会場での参加ができなかった場合は、後日、大会資料を送付させていただきます。）

8 大会日程

【受付】 11:30～12:30

○アトラクション（12:30～12:45）

- ・元氣一番！ふちゅう体操（参加型アトラクション）

○開会行事（13:00～13:25）

- ・開会の言葉
- ・主催者挨拶
- ・来賓祝辞
- ・歓迎の言葉

○基調講演（13:30～14:30）

- ・演題「みんながつくる〈社会〉へ
ー人生100年、AI、そしてポストコロナ時代の社会教育ー」
- ・講師
東京大学教授 牧野 篤 氏



○トークセッション（14:45～15:45）

- ・コーディネーター
東京学芸大学准教授・立川市生涯学習推進審議会委員 倉持 伸江 氏
- ・登壇者
東京大学教授 牧野 篤 氏
演出家（ミュージカルアニメーほか）・調布市社会教育委員 篠崎 光正 氏
東海大学准教授・昭島市社会教育委員 二ノ宮リム さち 氏
日本大学文理学部講師・町田市社会教育委員 吉田 和夫 氏

○質疑応答（15:45～16:15）

○閉会行事（16:20～16:25）

- ・主催者挨拶
- ・閉会の言葉

9 その他

大会報告書を1冊1,000円で希望者に販売いたします（参加費には含まれていません）。
会場参加されない方も大会報告書のみ申込可能です。

購入ご希望の場合は、各自治体でとりまとめて、大会受付システムにてお申込ください。

申込分の大会報告書は、関東甲信越静各県及び政令指定都市の事務局へ送付させていただきます。

なお、大会ホームページにて、大会の録画映像とともに報告書（抜粋）を公開予定です。

第 52 回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会の配信について

東京都市町村社会教育委員連絡協議会

新型コロナウイルス感染症拡大により、第 52 回関東甲信越静社会教育研究大会東京大会（「東京大会」）に参加できなかった全国各地の皆様や大会関係者の皆様に大会冊子データ及び「東京大会」の様子を収めた記録動画を後日インターネット上に期間限定で公開する予定です。

【閲覧方法】

- 1 <https://syakaiky.wixsite.com/website> にアクセスする。



左の QR コードからも
アクセス可能です。

「東京大会」のホームページは Internet Explorer のブラウザーでは閲覧できない場合があります。Google Chrome のブラウザーで閲覧ください。



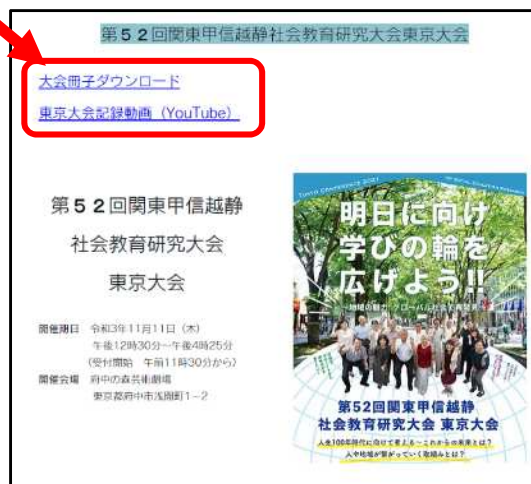
トップページのレイアウトについては変更
する場合がありますので、御了承ください

2 閲覧したいコンテンツを選択する

- (1) 大会冊子データ [大会冊子ダウンロード](#) を左クリックする。
- (2) 記録動画 [東京大会記録動画 \(YouTube\)](#) を左クリックする。

【大会冊子データ及び記録動画の配信期間】

- (1) 大会冊子データ
令和 3 年 11 月 11 日（木）から
令和 4 年 1 月 31 日（月）まで（予定）
- (2) 記録動画（YouTube）
令和 3 年 12 月 1 日（水）から
令和 4 年 1 月 31 日（月）まで（予定）
東京大会の様子についてライブ配信
は実施しません。





関 公 連 第 3 0 号
令和3年10月13日

各都県公民館連絡協議会（連合会、運営協議会）
会長、事務局長 様

資料5

関東甲信越静公民館連絡協議会
会 長 窪 田 包 久
（公 印 省 略）

第43回全国公民館研究集会第61回関東甲信越静公民館研究大会山梨大会
全体会オンデマンド配信の開始について（依頼）

時下、貴公連におかれましては、ますます御発展のこととお喜び申し上げます。

また、日頃から本協議会の運営に御協力をいただきまして感謝申し上げます。

さて、現在、山梨大会全体会の収録・編集作業を進めており、予定通り、令和3年10月29日（金）から全国公民館連合会ホームページにてオンデマンド配信いたします。

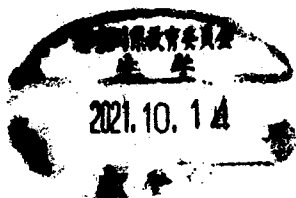
御多用のところ恐縮ですが、関係者の皆様へご周知いただけますようお願い申し上げます。

- 1 内容 全体会「大会基調講演と山梨県実践事例発表」
- 2 配信開始日時 令和3年10月29日（金）10時～
- 3 配信期間 令和4年度全国・関プロ大会が開催されるまで
- 4 視聴対象 特に制限は設けず、どなたでも視聴可能
- 5 視聴方法 ①右記 QR コードから山梨大会専用ホームページへ。
大会ホームページに記載している URL より全国公民館
連合会ホームページへ
＜山梨大会専用ホームページ＞
<https://kominkan2021yamanashi.localinfo.jp/>
②直接入力検索 全国公民館連合会ホームページに記載の「第43回全国
公民館研究集会山梨大会のお知らせ」から直接ご覧いただけます。
＜公益社団法人全国公民館連合会ホームページ＞
<https://www.kominkan.or.jp>



- 6 全体会概要 ○基調講演
講 師 笹本 正治 氏（長野県立歴史館 特別館長）
テーマ「歴史を踏まえた地域づくり」
○山梨県実践事例発表
発表者 岡田 みどり 氏（甲斐市敷島公民館）
テーマ「次世代へつなぐ地域文化遺産の継承」

関東甲信越静公民館連絡協議会事務局
〒400-8504 山梨県甲府市丸の内1-6-1
山梨県公民館連絡協議会事務局
（山梨県教育庁生涯学習課内）
事務局長 上笹 純夫 担当 伊藤 宏紀
電話 055-223-1770 FAX055-223-1775
電子メール：itou-krfp@pref.yamanashi.lg.jp



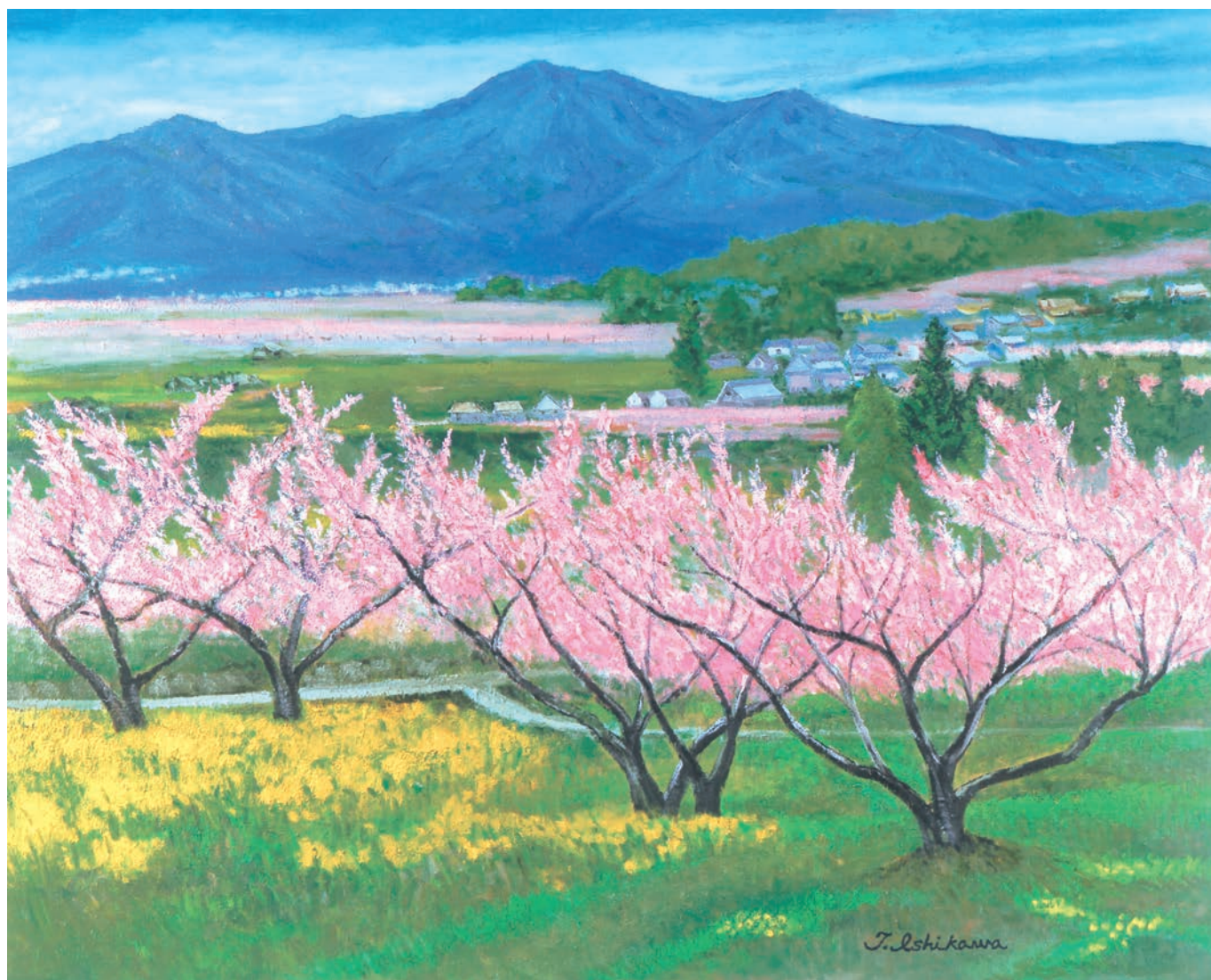
第43回

全国公民館研究集会

第61回

関東甲信越静公民館研究大会

山梨大会（兼 山梨県公民館研究推進大会）



「桃花咲く頃」 石川利彦（太平洋美術会）

動画配信日

令和3年10月29日(金) インターネット配信でご覧下さい。

開催地

山梨県甲府市

テーマ

公民館がつなげる地域の人・もの・こと & MIRAI
～しなやかな公民館活動をめざして～



主催

公益社団法人全国公民館連合会・関東甲信越静公民館連絡協議会・山梨県公民館連絡協議会
第43回全国公民館研究集会第61回関東甲信越静公民館研究大会山梨大会実行委員会

後援

文部科学省・山梨県・山梨県教育委員会・山梨県市長会・山梨県町村会
山梨県社会教育委員連絡協議会 他

開 催 要 項

本大会は、変異株の拡大などにより新型コロナウイルス感染症蔓延防止に伴う対応が必要となったため、通常開催が困難になったことから、映像と大会記録集による開催方法に変更することとなりました。新たに「つながる」方法も大切にしながら、一つ一つ前へ進み続けたいと思います。ご理解とご協力をお願いします。

【開催方法の変更点】

- 昨年度の千葉大会を参考とし、動画配信での開催とします。
- 全体会、分科会ともに参集形式での開催を取りやめます。
- 全体会については、主催者挨拶、基調講演、開催県の事例発表等を事前収録・編集し、全公連や大会専用サイトYouTubeチャンネルでの視聴に変更します。
- 分科会について、各都県の事例発表と助言者のコメントを掲載した「大会記録集」を作成し、紙面での発表に変更します。

趣 旨

新型コロナウイルス感染拡大のため、緊急事態宣言によって社会経済活動の制限が設けられるなど、国や地方、地域社会は大きな影響を受け続けています。各公民館においても、利用者の要望に応えつつも感染拡大防止に努めなければならず日々難しい判断を迫られております。

さて、我が国の子どもの人口は40年連続減少し続け、全国の高齢化率は30%に迫る勢いで上がり続けるなど少子化・高齢化の進行はますます顕著になり、生産年齢人口の減少とともに地域社会における次世代を担う人材不足も指摘されているところです。一方で、ICT・AIなど情報化・技術革新の著しい発展は、私たちの働き方・生活スタイルやコミュニケーションのあり方などを大きく変えるとともに、社会の多様化やグローバル化をもたらす新たな発想や発展を予感させる側面もあります。

このような変化の激しい時代にあって、地域住民の自由で自主的な自己教育・相互教育の場として中核を担ってきた公民館は、自治体の財政逼迫や平成の大合併に伴う再編整備などによりその数が減少し続ける中で、公民館類似施設の増加や首長部局への管理移管・防災拠点避難所としての役割・職員の勤務形態の多様化・社会的なニーズの多様化・地域コミュニティの形成と強化など様々な課題にどのように取り組んでいくのか問われています。「誰でも使える身近な場所」として、市民センターと公民館の違いなどは、地域住民にとってはそれほど問題ではなく、生涯学習・社会教育の拠点として「集う 学ぶ つながる」居場所として地域住民に、より開かれた柔軟でしなやかな取り組みが求められているのではないのでしょうか。変化の激しいこれからの社会の中で、公民館がどのように地域住民の取り組みを作り上げていくかを参加者の皆様とともに深めていきたいと思います。

対 象 者

公民館関係者・公民館運営審議会委員・教育委員・社会教育委員・教育委員会事務局職員
社会教育関係施設職員・公民館利用者・社会教育団体関係者・生涯学習関係者 他

大会記録集（受付：7月30日～9月10日までに申込みください。）

- ・ 1冊 1,000円（郵送代含む。令和4年2月頃発行）
- ・ 内容 主催者挨拶・全公連表彰者一覧・全体会（基調講演・開催県事例発表）・分科会（各都県事例発表・助言者のコメント）・大会アピール・全体会DVD

全 体 会 10月29日（金）以降、全公連YouTubeチャンネルで視聴公開予定

内 容	
テーマ	公民館がつなげる地域の人・もの・こと&MIRAI ～しなやかな公民館活動をめざして～
○基調講演（約40分）	
「歴史を踏まえた地域づくり」	講 師 笹本 正治 氏（長野県立歴史館 特別館長）
○山梨県事例発表（約40分）	
「次世代へつなぐ地域文化遺産の継承」	発表者 岡田 みどり 氏（甲斐市敷島公民館）

分 科 会

分科会テーマ・助言者	ねらい	事例発表者・タイトル *敬称略
第1分科会 公民館の今日的課題 助言者 栗田 真司 (山梨大学大学院教授)	今日の公民館は、地域の自主的民主的な学習施設としての役割を果たすとともに、少子高齢化、男女共同参画、地域コミュニティの形成など多様で複雑な今日的な課題の解決に取り組むことが求められている。様々な課題の解決と持続可能な社会の実現に向けて、公民館の取り組みについて考える。	◆東京都 ますもと さちこ 増本 佐千子 (元国分寺市立恋ヶ窪公民館 館長) 「11市が協働したオンライン事業への試み 一都公連・職員部会研修」
		◆埼玉県 あざみ かずひこ 浅見 和彦 (横瀬町公民館 館長) 「高齢化社会における公民館の役割」
		◆新潟県 こいづか ただお 恋塚 忠男 (三条市中央公民館 館長) 「きっかけの1歩事業と今後の生涯学習の展望」
第2分科会 地域をつなぐ公民館 助言者 青山 貴子 (山梨学院大学副学長)	地域住民の拠点であり、ひと・もの・こととの出会いと活動の場を提供してきた公民館の役割を、個人やNPOなど民間団体、その他多様な立場の人々が担うようになってきている。公民館と地域住民、様々な個人や団体、他の行政機関との連携や協働の取り組みについて考える。	◆栃木県 やまがた ひろゆき 山形 弘行 (鹿沼市南摩公民館 館長) 「『なんまん』が育むいきいき南摩の輪！」
		◆群馬県 さかきばら てつなり 榊原 哲成 (藤岡市教育委員会生涯学習課鬼石公民館係長) 「共同から協働へ ～コロナ禍における 各種団体との『キョウドウ』～」
		◆神奈川県 たかぎ とおる 高木 徹 (綾瀬市立中央公民館 館長) 「綾瀬市立中央公民館の地域住民や 多様な主体との連携事例について」
第3分科会 防災と危機管理 助言者 富永 貴公 (都留文科大学准教授)	災害や非常事態への備えが迫られる今日、公民館は地域における相互扶助や防災意識の向上に努めるとともに防災拠点としての役割をこれまで以上に期待されている。積み重ねてきた成果をもとに、これまで経験したことのない様々なケースにおける危機管理について考える。	◆千葉県 きたやま なつみ 北山 菜摘 (千葉市黒砂公民館) 「コロナ禍の避難所運営」
		◆長野県 かしわざわ ゆきかず 柏澤 由紀一 (松本市芳川公民館 館長) 「地域防災upへの取り組み」
		◆茨城県 えびさわ あつし 海老澤 敦司 (筑西市教育委員会地域交流センター長) 「防災と危機管理」